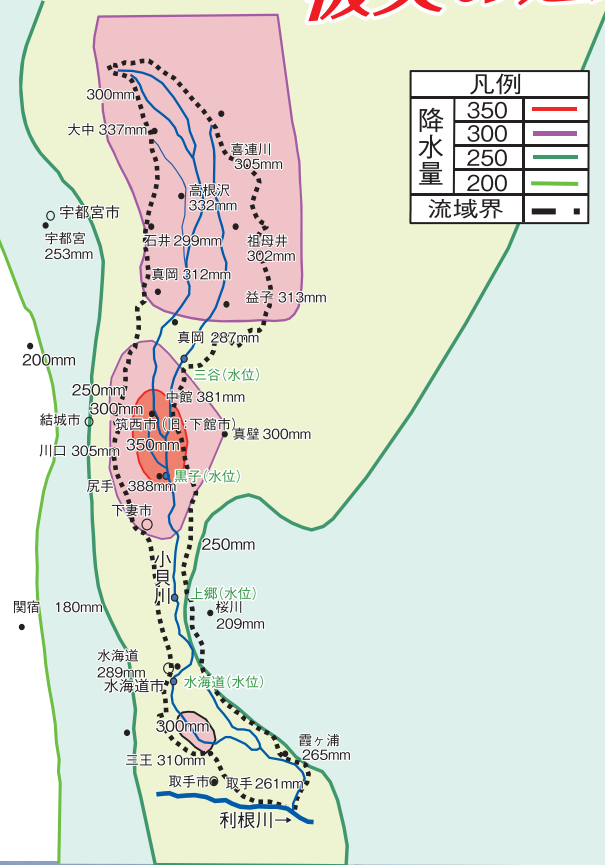


昭和61年 小貝川水害

発生から振り返る
被災の足跡

台風第10号から変化した温帯低気圧 による集中豪雨

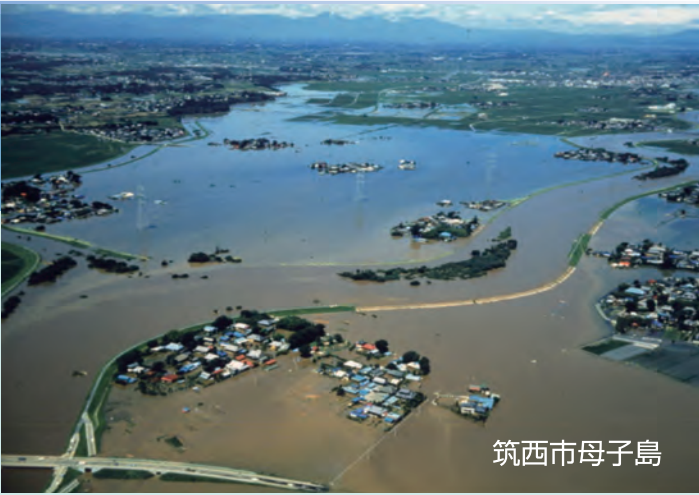
1986(昭和61)年8月、台風第10号から変化した温帯低気圧により、小貝川流域では24時間雨量300mmを超える記録的大雨が発生し、甚大な被害を受けました。水位はほぼ全川にわたって当時の計画高水位を上回り、筑西市(旧明野町)赤浜・常総市(旧石下町)本豊田の二か所で堤防の決壊、さらに上流の未改修部分では越水が多発生し、特に筑西市(旧下館市)は市の1/4が冠水しました。



筑西市赤浜決壊



常総市本豊田決壊



筑西市母子島



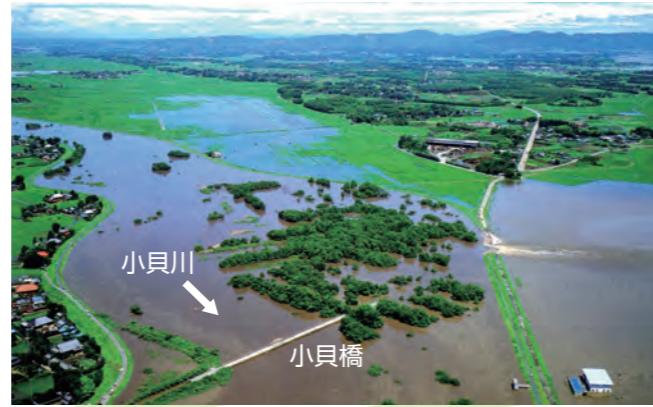
筑西市(旧下館地区)

洪水の被害状況

浸水区域は大きく2つに分かれ、常総市(旧石下町、水海道市地区)と上流部の筑西市(旧下館地区)を中心に被害が発生しました。上流部では未改修部分が多く、無堤部からの越水により広範囲が浸水しました。また、筑西市(旧下館市)赤浜、常総市(旧石下町)本豊田の2箇所の堤防の決壊もあり、浸水面積約4,300ha、浸水戸数約4,500戸、被害額は約400億円にも及びました。

筑西市 赤浜地先 での被害

8月4日、茨城県筑西市(旧明野町)赤浜地先(左岸49.0k)の堤防が幅85mにわたり決壊しました。小貝川に架かる小貝橋の堤防取付部が他の堤防に比べ高さが低くなっていたことから越水が集中し、堤防裏から侵食が進み決壊に至りました。



筑西市(旧下館市)の被害

筑西市(旧下館市)では無堤部からの越水で市の1/4が水に浸り、甚大な被害を受けました。市全体の浸水被害は、床上浸水1,373戸、床下浸水884戸にも達しました。



筑西市(旧明野町)赤浜地先 決壊(85m)



常総市(旧石下町)
本豊田地先 決壊(60m)

～緊急復旧工事～



二重締め切りによる仮堤防

洪水による被害を受け19箇所で緊急復旧工事が実施されました。

堤防が決壊した赤浜地先、本豊田地先では、根固めブロックによる荒締切を行った後、鋼矢板を使用し二重締め切りによる仮堤防を約2週間で施工しました。

常総市(旧石下町) 本豊田地先 での被害



8月5日、茨城県常総市(旧石下町)本豊田地先(右岸35.5km)の堤防が幅60mにわたり決壊しました。

このとき、決壊地点から上流100mにある上郷水位観測所での最高水位は、計画高水位を0.55m上回っていました。

氾濫水は小貝川と鬼怒川に挟まれた低地を流下し、旧石下町からその南側(下流側)の常総市(旧水海道市)にかけて流れ込み、浸水面積1088.5ha、床上365棟、床下407棟の浸水被害が発生しました。

～小貝川激特事業～

再度の災害発生防止の観点から、直轄河川激甚災害特別緊急事業(以下激特事業)として、昭和61年度から平成2年度の5ヶ年で、総事業費193億円(最終208億円)をもって、小貝橋(49.0km)から養蚕橋(58.6km)の改修を実施しました。



小貝川激特事業は

- ①洪水流下時の阻害となる小貝橋(現小貝大橋)の架替え
 - ②浸水被害のひどかった母子島地域の治水整備(遊水地整備、浸水した5集落の移転等)
 - ③小貝川の流下能力増強のため河道掘削と築堤等
- を主な事業として実施されました。



小貝橋架替え

災害当時、小貝橋は河川の中であり、高さも低かったため堤防の高さが不足していました。また、取り付け部が左右岸とも盛り土形状であったため、流下断面を狭めていました。以上のことから流下能力向上のため橋の架替えを実施しました。

